

## はしがき

本書は『東京大学総合研究博物館動物部門所蔵 魚類標本リスト(2)』(2022)に次ぐ第3号の標本資料報告である。2021年5月から第二編者の小枝圭太を中心とし研究事業協力者や外部研究者、ボランティアの協力を得た東京大学総合研究博物館動物部門所蔵の魚類標本(ZUMT: The Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo)コレクションの整理作業が始まり、2023年1月から現在までは第一編者の和田英敏の主導のもと継続されている。第一編者の就任以降は東京大学総合研究博物館ウェブサイトでの標本データの公開作業も進められており、現在までに第1・2号の標本資料報告をPDFファイルにて公開するとともに、未整理のものを含めたZUMTの全標本リストが仮公開されている。

この標本資料報告においては、18報の個別のタクソンの標本目録、および2報のタイプ標本目録を掲載することが出来た。これらの報告はいずれも単なる目録にとどまらず、各タクソンの分類学的知見、生物地理学的知見、および博物学的知見を盛り込んだディスカッションを含む意欲的な内容となっており、各タクソンの研究における基礎資料となることも期待される。

これまでの活動により、ZUMTコレクションの活発な利用へと繋がり、新たな学術的発見へと繋がっていくことを切に願う。なお、標本整理作業は現在も引き続きすすめられており、今号に掲載できなかった分類群の標本目録については次号以降にて掲載する予定である。

本プロジェクトの推進および本目録の出版に際しては多くの方々のご協力を得た。東京大学総合研究博物館の研究部教員、事務職員の方々には様々な御支援をいただいた。本プロジェクトは、平成11-令和5年度の本学総合研究博物館プロジェクト研究経費、公開利用経費による援助を受けて実施された。藍澤正宏氏、坂本一男氏、畑 晴陵氏、畑あゆみ氏、藤原恭司氏、古橋龍星氏、深谷真央氏、および熊木慧弥氏には標本の観察や同定、管理・維持作業に加え原稿の執筆、確認をしていただいた。ボランティアの小林健二氏、宮下雄博氏、尾形比呂哉氏、新江ノ島水族館の園山貴之氏、自然環境研究センターの望月健太郎氏、東京海洋大学の江藤 暁氏、齋藤 舞氏、高橋あゆみ氏、阿部伊央太氏、藤原咲紀氏、飯沼 藍氏、金子友哉氏および藤原好生氏、東京大学の亀井遥香氏、伊藤想也氏、および須田大朔氏、雙葉中学校・高等学校の刑部南月子氏、お茶の水女子大学の小田 咲氏にはZUMT標本の管理・維持作業を手伝っていただいた。これらの方々に、この場を借りて、厚くお礼申し上げます。最後に、ZUMT標本が今日に至るまでに多大な貢献をいただいた故富永義昭氏に深い感謝の意を示したい。

2024年2月8日

和田英敏<sup>1)</sup>、小枝圭太<sup>2)</sup>、上島 励<sup>3,4)</sup>

<sup>1)</sup> 東京大学総合研究博物館 キュラトリアル・ワーク研究系 特任助教

<sup>2)</sup> 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 助教

<sup>3)</sup> 東京大学総合研究博物館 動物部門主任

<sup>4)</sup> 東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻准教授